

薬物等の依存についての相談

事例 09

32歳の夫が違法薬物所持・自己使用で逮捕され、2年間服役し、来月の仮釈放が決まった。過去にも違法薬物の使用で逮捕されたことが複数回あり、服役はこれが2度目。

薬物依存からの回復のため、家族として夫を支えていきたいが、どうすればいいのか分からず、再び、薬物を求める状況に戻ってしまうのではないかと不安。

相談者：妻

A 都立(総合)精神保健福祉センター

i 都内の依存症相談拠点

- 都立(総合)精神保健福祉センターのこころの電話相談で相談をしてみると、夫の薬物依存からの回復と、家族に対しての個別相談を実施するほか、関係機関などについても教えてもらったとのこと。
- 後日、「依存症家族教室」に参加したところ、支援者や回復者の家族、回復者本人などからさまざまな話を聴くことで、夫への対応を具体的にイメージすることができた様子。

- また、依存症当事者を対象とした「依存症回復支援プログラム」も行っているため、夫に紹介するよう勧められたとのこと。

B 薬物依存症の治療に対応可能な医療機関

i 薬物依存症について治療が必要な人のための機関

- 精神保健福祉センターから、継続的な治療が必要となる場合もあるとの助言を受け、出所後、夫とともに医療機関を受診。薬物依存症に関して、医師から専門的な話を聞き、継続的な治療を受けることになった様子。

C 保健所・保健センター

i 地域住民の健康の保持及び増進のための拠点として、薬物依存に関する相談にも対応する機関

- 生活相談や家族相談を実施していることを伝えると、自宅(帰宅先)から比較的近いところにあるため、何か困ったり不安を感じることがあれば相談してみたいと、心強さを感じた様子。

民間リハビリ施設

i 依存症の回復と社会復帰を目指し、回復者が運営する施設

- 出所後、夫とともに施設を訪問し、入所と通所の違いやそれぞれの特徴などについて教えてもらったとのこと。

D ダルク(DARC)

E マック(MAC)

支援の ポイント

- ✓ 薬物依存症からの離脱につながる社会資源の理解
- ✓ 家族としての悩みの共有、本人の回復を見守る必要性の理解



相談内容

夫が薬物依存から回復するために、
家族として何をすればいいですか？
また、夫が利用できる支援を教えてください。

家族会

i 薬物依存について家族が知識を持ち、悩みを共有することで、本人への対応等を共に考える団体

- さまざまな家族会があるので、相談者である家族が所属しやすい形態の団体を選ぶ必要があるとアドバイス。
- 依存症者の家族としての悩みや困難を共有し、まず妻自身が健康に日々を過ごしながら、夫の回復を見守ることを目指していく大切さを伝えた。
- 妻は家族としてどのように夫と関わるべきか、時間をかけて答えを見つけていきたいとのこと。

G

ナラノン(Nar-Anon)

i 薬物の問題で苦しんでいる家族や友人達の自助グループ

- ミーティングに参加し、これまでのつらかった経験や、今後の不安などについて話をしたことで、少し落ち着いた様子。匿名で参加できることも安心材料となった様子。継続的な参加を前向きに考えてみるよう助言した。

出所後の本人をサポートする機関・団体

F

NA(ナルコティクス アノニマス)

i 薬物依存症からの回復を目指す自助グループ

- 各地でミーティングを開催しているため、まずは最寄りのミーティング会場に行ってみよう勧めた。
- ※HPで、全国のミーティング開催予定が確認できます。

参考

依存症者本人が服役中や仮釈放中の場合は、保護観察所が開催する家族会・引受人会に参加できることもあります。詳細は、保護観察所や担当保護司にお尋ねください。



活用できる機関・団体や制度

(A)

都立(総合)精神保健福祉センター 事例3(P.34) 参照

主な
支援
内容

- ・電話相談
- ・面接相談
- ・依存症家族教室
- ・依存症回復支援プログラム

(B)

薬物依存症の治療に対応可能な医療機関

国立研究開発法人 国立精神・神経医療研究センター病院

概要	病院と研究所が一体となり、薬物依存症の実態解明や治療法の開発を行っており、その成果を生かして薬物依存症に悩む方の治療を行っています。当院の薬物依存症センターでは、「安心して正直になれる治療環境」を作るべく守秘義務を最優先し、ご本人のニーズに応じた治療を提供することを心がけています。 当院は、薬物依存症に関する厚生労働省依存症対策全国センターであり、同時に、東京都の薬物依存症治療拠点機関でもあります。
対象	・薬物問題でお悩みの方、薬物に対する欲求が強くてつらい方 ・薬物使用による精神障害の治療を希望される方 ・薬物問題とともに、合併する精神疾患の治療を希望される方
主な 支援 内容	・薬物依存症外来における精神科医による個別診療 ・認知行動療法の手法を活用した薬物依存症集団療法(SMARPP) ・薬物依存症に対する個人認知行動療法 ・薬物依存症に対する集団作業療法(リアル生活プログラム) ・短期入院治療プログラム(FARPP) ・女性のための依存症回復支援プログラム ・薬物依存症のご家族のための心理教育プログラム
連絡先 等	〒187-8551 小平市小川東町4-1-1 メール: yakubutsuizon@ncnp.go.jp ☎042-346-1954 [予約受付時間]月～金(祝日・年末年始を除く) 10:00～16:00 ※初診の申込みはEメールもしくは電話にてお願いします。具体的な申込み方法は、ホームページでご確認ください。
URL	https://www.ncnp.go.jp/hospital/patient/special/drug-addiction.html (「国立 薬物依存症外来」で検索)

昭和大学附属烏山病院

概要	当院のアディクション専門外来では、アルコールに限らず薬物・ギャンブル等も含めたアディクション全般を対象とした治療に取り組んでおり、依存症を専門とする医師が診察を行います。
対象	アルコール・薬物・ギャンブル・ゲーム・万引きなどを含めたアディクション全般
主な 支援 内容	・アディクション外来プログラム ・外来患者対象のSMARRP(毎週月曜日) ・自助グループへの紹介・連携 ・解毒(薬物を物理的に使わない時間を作るための)入院 ・入院患者対象にアディクション治療プログラム(週1回) ・行動嗜癖専門外来プログラム(第2・第4金曜日)
連絡先 等	〒157-8577 世田谷区北烏山6-11-11 ☎03-3300-5329(総合サポートセンター) [受付時間]月～金 8:30～17:00 ※日曜・祝日・本学創立記念日(11/15)・年末年始は休診となります。 初診日(アディクション専門医):毎週金曜 9:00～11:00 予約の必要はありません。 再診日:毎週火曜(予約制、診療の際に次回の予約をお取りします。)
URL	https://www.showa-u.ac.jp/SUHK/patient/outpatient/special/addiction.html (「烏山病院 薬物治療」で検索)

地方独立行政法人東京都立病院機構 東京都立松沢病院

概要	薬物等の使用による障害をお持ちの方に対して専門的な医療を提供するため、専門病棟、専門デイケアを有し、急性期症状の対応から依存症の回復・社会復帰まで、切れ目なく支援できる体制で治療を行っています。
対象	薬物・アルコール等の使用による障害をお持ちの方
主な支援内容	・専門病棟(薬物・アルコール依存症治療病棟) ・依存症デイケア
連絡先等	〒156-0057 世田谷区上北沢 2-1-1 予約電話番号: ☎03-3303-8379 [受付時間]月～金 8:30～17:15、土 8:30～12:45 ※精神科外来を予約した上で受診してください。
URL	https://www.tmhp.jp/matsuzawa/ (「都立松沢病院」で検索)
備考	お急ぎの場合などは患者・地域サポートセンター患者家族支援グループ(代表 ☎03-3303-7211)までご相談ください。

※これらのほか、都内には複数の医療機関があります。

③ 保健所・保健センター 事例3(P.34)参照

④ ダルク(DARC)

概要	ダルク(DARC)とは、ドラッグ(DRUG=薬物)のD、アディクション(ADDICTION=嗜癖、病的依存)のA、リハビリテーション(REHABILITATION=回復)のR、センター(CENTER=施設、建物)のCを組み合わせた造語で、覚醒剤、危険ドラッグ、有機溶剤(シンナー等)、市販薬、その他の薬物から解放されるためのミーティング中心のプログラムを行っています。
対象	・薬物・アルコールをやめられなくて困っている方 ・家族、パートナー、友人、支援者の方からの相談にも応じます。

特定非営利活動法人 東京ダルク

主な支援内容	・入所(ダルクホーム)仲間同士が共同生活をしながら生活リズムを整える ・通所(ダルク・セカンドチャンス)プログラムを通じて思いを分かち合い回復を目指す
連絡先等	〒110-0003 台東区根岸5-8-16-2F ☎03-3875-8808 [受付時間]月～土 9:30～17:00 メールフォームでのお問合せ(https://tokyo-darc.org/inquiry)
URL	https://tokyo-darc.org/ (「東京ダルク」で検索)

特定非営利活動法人 日本ダルク

主な支援内容	・入所(福祉ホーム、ナイトケアハウス) ・通所(アパクリニックデイケア)
連絡先等	〒162-0055 新宿区余丁町14-4 AICビル ☎03-5369-2595(インフォメーションセンター、施設利用問合せ窓口) [受付時間]月～土 10:00～17:00
URL	http://darc-ic.com/ (「日本ダルク」で検索)

就
労

心
身
の
不
調

少
年
本
人
の
悩
み

就
学

障
害

生
活
困
窮

薬
物

保
護
者
の
悩
み

加
齢

D
V
・
虐
待

暴
力
団

特定非営利活動法人 八王子ダルク

主な支援内容	・入所(八王子ダルクホーム)仲間同士が共同生活をしながら生活リズムを整える (入所型生活支援・金銭管理・健康管理・就労支援など) ・通所(オネスティ(生活訓練施設)様々なプログラムを通じて依存症からの回復を目指す (グループミーティング・個別相談・外部講師・スポーツなど) ・家族相談(スマイル)薬物依存症のご家族のための心理教育プログラム・個別相談
連絡先等	〒192-0073 八王子市寺町43-9 中銀八王子マンション 101 ☎042-686-3988 [受付時間]月～土・祝日 9:30～17:00
URL	https://8oji-darc.org/ (「八王子ダルク」で検索)

特定非営利活動法人 ダルク女性ハウス

対象	依存症からの回復を望む女性
主な支援内容	・入所(女性専用の入所施設(障害者福祉ホーム)) ・通所(フリッカ・ビーウーマン[生活訓練・就労継続支援B型施設]) ・生活上のさまざまな困り事について支援を行っております。どうぞお気軽にご相談ください。
連絡先等	〒114-0014 北区田端6-3-18 ビラカミムラA301 ☎03-3822-7658 [受付時間]月～金 10:00～15:30
URL	(「フリッカ・ビーウーマン」で検索)

※これらのほか、都内では複数のダルクが活動しています。

E マック(MAC)

概要	マックは、全国に12団体17施設あるアルコール依存をはじめとする依存症の方の回復支援を行う民間団体です。全国マック協議会に所属し、マックグループの「理念」や「行動倫理に関する基準」に沿って運営されます。以下は、都内でアルコール依存症のほか薬物依存など多様な依存症の方を受け入れている特定非営利活動法人ジャパンマックについての記載です。
----	---

特定非営利活動法人 ジャパンマック

対象	・アルコール、薬物、ギャンブル、性的嗜癖、ゲーム、窃盗など、何らかの物質や行為がやめようと思ってもやめられなくなって依存症の状態にある方。 ・ご家族や支援者の方からの相談にも応じます。
主な支援内容	・通所サービス(マックミーティング、個別相談、リカバリー・ダイナミクス® プログラム、性嗜癖問題回復プログラム(REPSAM)、ギャンブル依存症回復プログラム、保釈期間中プログラム、法律相談等) ・宿泊サービス(東京都福祉ホーム、東京都福祉保健財団レジデンス事業、障害福祉サービス(共同生活援助)、東京保護観察所登録自立準備ホーム、自主運営ハウス。すべて個室。)
連絡先等	〒114-0023 北区滝野川6-76-9 エスポワール・オチアイ1階 ☎03-3916-7878 [受付時間]月～土 9:00～17:30
URL	https://www.japanmac.or.jp/ (「ジャパンマック」で検索)

F NA(ナルコティクス アノニマス)

概要	薬物使用等による問題を抱えた当事者同士が、匿名で定期ミーティングを行うことによって依存症からの回復を目指す非営利団体です。「年齢、国籍、性的アイデンティティ、主義、信仰の有無にかかわらず、いかなる人でも私たちの仲間に加わることができる」という方針の下、世界139か国のさまざまな地域でミーティングが開催されています。
対象	薬物乱用を止めたいと考えている方
主な支援内容	さまざまな薬物乱用の問題を抱えた方々のために開発・発展された伝統的な12ステップモデルを使用したプログラムの提供
連絡先等	NAでは、電話やメールでの相談業務を行っておりません。薬物の問題でお困りの方は、まずは最寄りのミーティング会場にお越しください(ミーティング会場はホームページでお調べいただけます。)
URL	https://najapan.org/ (「ナルコティクス」で検索)

G ナラノン(Nar-Anon)

概要	ナラノン ファミリー グループ ジャパンは、身近な人の薬物(覚せい剤・シンナー・処方薬・市販薬など)の問題で、自分の生活と生き方に影響を受けている人たちのための自助グループです。薬物の問題で苦しんでいる家族や友人たちの手助けをし、その人たちを同じ問題を抱えた仲間として、理解し、勇気づけ、暖かく迎え、そして安らぎを与えていくことを目的としています。
対象	薬物依存の問題を抱える方のご家族や友人等
主な支援内容	「ナラノン12のステップ」に基づいて、私達はミーティングで経験・力・そして希望を分かち合うことにより助け合います。(ミーティングは匿名で行われます。)
連絡先等	ナラノンでは電話相談には対応しておりません。まずはお近くのミーティング会場にお越しください。最新のミーティング会場の場所はホームページでお調べいただくか、ナラノンNSOにお問合せ下さい。(ナラノンNSO ☎03-5951-3571 月、水、金11:00~15:00 但し祝祭日休み。)
URL	http://nar-anon.jp/ (「ナラノン」で検索)

貧困と障害と犯罪 —生きづらさに寄り添う支援—

東京都地域生活定着支援センター
菊地 伸宏

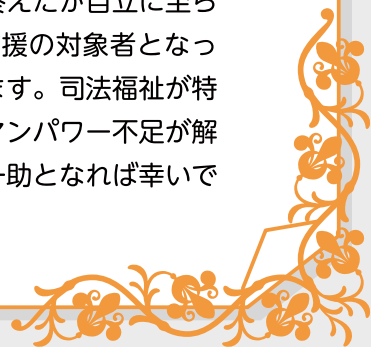
2009年に地域生活定着支援センターの設置が開始され、東京都においても2011年に東京都地域生活定着支援センターが開設し、現在13年以上経過しています。服役中から障害サービスや介護保険の導入など、障害や高齢の刑余者の出口支援である特別調整を主な業務として行ってきました。また、本年度から東京都地域生活定着支援センターも被疑者等支援業務を開始し、出口支援だけでなく、入口支援にも関与することとなりました。

日頃、支援している対象者は様々な問題や生きづらさを抱えています。特に貧困と障害と犯罪は密接であると考えています。貧困が犯罪につながりやすいこと、障害による能力的制約が貧困や犯罪を招きやすいことはもちろんですが、犯罪による服役後貧困に陥り、障害が悪化することもあります。さらに原家族の機能不全、何らかのトラウマ、不安定な交際や対人関係障害、アディクションなど、生きづらさが負の連鎖を起こしている対象者が極めて多いです。

こうした状況を解決する際に、「犯罪を防ぐ」という行動障害のみを修正することを支援者や家族は皆、考えると思います。犯罪をやめて欲しいのです。ところが犯罪に至る経緯や認知は千差万別です。「犯罪を防ぐ」のみの対応では根本の問題が解決していないため、一時的に落ち着いたとしても、支援者や家族が油断した頃に再犯に至ることが多いです。行動障害のみの修正による再犯防止は難しく、やはり生きづらさや、対人関係障害、認知の歪み、家族関係といった問題を包括的に支援することにより、結果、犯罪が減っていくことを目指すこととなります。こちらの対応の方がより福祉的支援寄りであると言えるかもしれません。

東京都地域生活定着支援センターでは専門性の高い特別な支援を導入しているわけではありません。支援計画は犯罪を防ぐことよりも、犯罪に至る経緯のアセスメントと必要な福祉的支援の包括的支援計画を目標としています。東京都地域生活定着支援センターが特別な支援を行っているのではなく、地域福祉のネットワークが互いの専門性を活かすことができるようなコーディネート心を心がけております。

また地域生活定着支援センターだけではなく、司法福祉は全般的に質・量ともにマンパワーの不足が問題となっています。「犯罪に至る以前に福祉支援の対象者だった」「服役を終えたが自立に至らず福祉的支援が必要になった」「服役中に加齢や障害、疾病の悪化により福祉支援の対象者となった」このような対象者の支援は一般的な福祉支援とそれほど差がないと感じています。司法福祉が特別な支援となる社会ではなく、一般的な福祉支援の対象となる社会作りにより、マンパワー不足が解決することを願っており、また地域生活定着支援センターがこうした社会作りの一助となれば幸いです。



西鉄高速バスジャック事件の 被害者になって

山口 由美子

私は2000年に起きた西鉄高速バスジャック事件被害者の一人です。佐賀から福岡天神行のバスが17歳の少年に乗っ取られ、一人死亡、二人が重傷を負った事件です。

バスが高速道路に入ってしまったら、少年が突然立ち上がり牛刀を振り上げ、「このバス乗っ取った」と声を上げました。トイレ休憩が取られた時、降りた方の戻りが遅いことに腹を立て、私に斬りかかったのです。私は顔や手・首を斬られ座席から通路に転がり落ち、床に座り込みました。目の前にあったひじ掛けに傷が骨まで達していた左手を置き、傷の浅い右手で身体を支え、「少年を殺人者にするわけにはいかない」との思いと「わが子のためにもまだ死ねない」という思いで耐えました。その時、怖いという思いはなく、「少年の心がこんなにしなければいけないぐらい傷つき追い込まれていた」と感じました。その後、乗客が窓から逃げたことで、私と一緒に乗っていた塚本さんが刺されていました。

事件後、加害少年が不登校からひきこもりだったことを知りました。カウンセリングを受けた旧知の精神科医から少年の居場所のなさが語られた時、こうした少年たちのための居場所をつくりたいと思いました。事件から1年後、私は仲間と共に不登校の子を持つ親の会を、さらに1年後に子どもの居場所「ほっとケーキ」を開設しました。居場所では、来たばかりの頃には下を向き目も合わせられなかった子が、「ここでは学校に行かなくても、いい子でなくても大丈夫！」と思えた時、笑顔で目と目が合うようになります。私たちスタッフが、子どもから受け入れてもらった瞬間です。

その後の2006年、私は佐賀少年刑務所から、「入所者の初期教育として講話を」との依頼があり、今も月に1回、講話に出向いています。被害者の話と聞いて、はじめは責められると思い固になっていた入所者の中には、こちらが話していくうちに顔が柔らかくなり涙する方もいます。以下に入所者の感想文を載せます。

「先日講話がありました。正直面倒臭いなあという気持ちでしたが好奇心で聞きました。講話が始まり心から興味が湧きました。バスジャックはいろいろとショッキングな事件でした。被害者の方は重傷を負い、連れの方は犯人に殺され、しかも犯人は17歳、色々問題のあった犯人を被害者の方は、恨むでもなく、かといって許すでもなく、見守ると言っていました。これはとても大変な事だと思います。犯人の今後を見守っていききたいと、自分を切り付けられ、知り合いを殺した犯人を。優しく厳しい言葉だと思います。(中略)僕は今罪を犯して刑務所にいます。今回この講話を聞いて考えが変わった気がします。今後は、人の心を理解できる一人前の大人になって社会復帰できるよう努力していきたいです。(以下省略)」

私はこのように感じてくれる人が一人でもいると、嬉しくなります。講話で一番伝えたいことは、「再犯して欲しくない！」ということです。二度と繰り返さないために、教官の方々や自分自身と向き合い考えて欲しいと。そして、人は変われること。私も事件に遭って変わりました。起こったことは変えられないけれど、向き合い方は変えられるということを伝えていきます。さらに、「自分の人生です。自分で自分を投げ出さないでください。」とお願ひしています。



佐賀少年刑務所における刑執行開始時指導